

行って知って感じて
私達のまち いちかわ [6]

ヒキガエルは、市川の方言で「オカマ」や「エボゲ一口」と呼ばれて親しまれていました。現在の都市化が進ん

だ市川市でも、産卵して野生で生き続けています。それなのに、ヒキガエルは、みんなに気づかれることが少ないんです。大人の手くらい大きい体のカエルなのに。その秘密を少しご紹介！



背中の色は、黄土色～濃い焦げ茶色。土に隠れやすい色！

背中の中は、愛の季節だけなくなるよ。

鳴声は「グググツ」や「グウグウツ」。でも、あまり鳴かないよ

ぼくたちも市川市に住んでいます

夜行性なので、みんなが寝ている夜に活動してるよ

ぼくを触った後は、必ず手洗いしてね！


昼間や冬は庭石の下などの日陰で寝ているよ

1 3月頃は愛の季節
オス→ ←メス
オスたちの大アブローチを受けて、団子状態の中で、メスは卵を産みます

2 卵は透明な紐状の中にたくさん！

3 4～5月頃にオタマジャクシ誕生
市川の方言で「オタマッコ」などと呼ばれていたよ。
色は黒！
長さ約3cm
5月下旬頃に足が生えて、陸での生活が始まります。

4 寿命は約10年と言われています



【カエルやヒキガエルをもっと知ろう】

小学生～中学生にお勧めのこども図書館で借りられる本だよ。

『カエルのきもち』千葉県立中央博物館／監修 晶文社出版 2000.7

『カエルのたんぼ』長谷川 雅美／著 フレーベル館 1998.5

『カエルの知られざる生態 変態・行動・脱皮のしくみ』松橋利光／著 誠文堂新光社 2010.1

『カエル 楽しい歌が聞こえてくるよ』草野慎二／著 平凡社 1984.6

『たのしい動物行動学 カエルの鼻』石居進／著 八坂書房 2009.6

この本は中央図書館で借りられるよ

ヒキガエル・オタマジャクシの方言:『市川市の方言』『市川市史 第四巻』昭和50年発行



ヒキガエル産卵情報募集!

(平成25年5月31日まで)

ヒキガエルは都市化の進んだ市川市の自然環境のありようを表すものとして、市史編さんのなかで注目している生き物です。ヒキガエルの主たる産卵地が民家の敷地内ということから、今年も市民の皆様からヒキガエルの産卵についての情報を募集しています。ヒキガエルやその卵を見かけましたら、webサイト(アンケート)又は自然博物館まで情報をお寄せください。ご協力お願いします。

産卵情報募集の問合せ先:市立市川自然博物館(TEL:047-339-0477)

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/shishihensan>

自然博物館企画展示
いきものの成長

12月1日(水)まで開催中。カエルなどの生き物の成長を来館の度に実感してください。

【会場・問合せ先】

市川自然博物館

市川市大町284 動物園内

TEL: 047-339-0477

休館日:月曜日

(祝日の場合は翌平日)

市川市 文化国際部 文化振興課(市史編さん事業担当)

〒272-0023 千葉県市川市南八幡4-2-5(いちかわ情報プラザ 2階)

TEL 047-300-8020 FAX 047-300-8061 <http://www.city.ichikawa.lg.jp/shishihensan>